

# モダンクラフト

# 京都国立近代美術館

7/9 fri.  
8/22 sun.

●会期中一部作品を展示替いたします。

京都国立近代美術館コレクションより  
**Chronicle of Modern Crafts**  
 Works from the National Museum of Modern Art, Kyoto Collection

休館日 月曜日(ただし8月9日は開館)、8月10日(火)  
 開館時間 午前9時30分～午後5時(金曜と土曜は午後8時まで)  
 開館入館は閉館の30分前まで 主催 京都国立近代美術館、京都新聞

新型コロナウイルス感染拡大  
 大防止のため、休館日・開  
 館時間は変更となる場合  
 があります。来館前に最  
 新情報を確認ください。



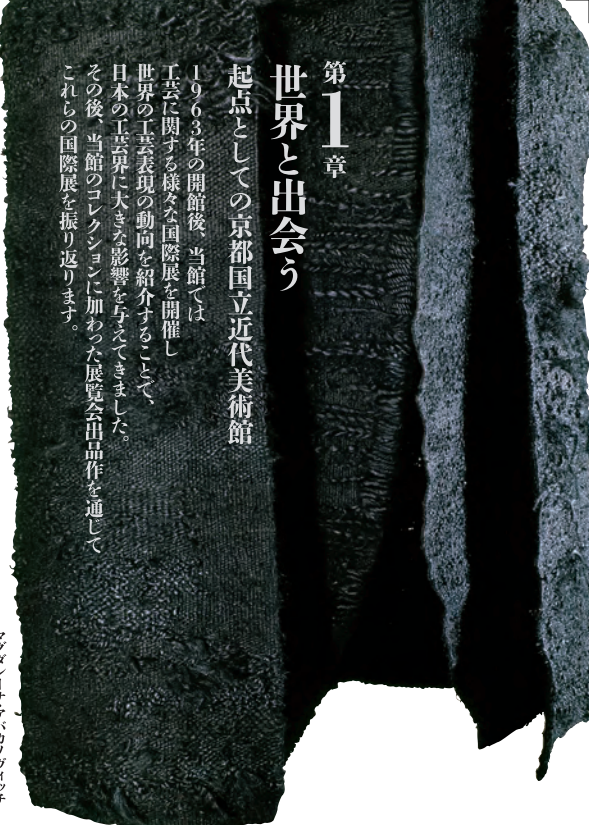


# 第1章 世界と出会う

## 【起点としての京都国立近代美術館

1963年の開館後、当館では工芸に関する様々な国際展を開催し、世界の工芸表現の動向を紹介することで、日本の工芸界に大きな影響を与えてきました。その後、当館のコレクションに加わった展覧会出品作品を通してこれらの国際展を振り返ります。

マダレーナ・ナベカワツツチ  
黒い上衣 V  
昭和49年(1974)



# 第3章

## 「美術」としての工芸

### 第8回文展前後から現在まで

1927年に帝国美術展覧会(帝展)に第四部美術工芸が設置されたこと、工芸はようやく国の美術制度に組み込まれることになりました。その後、帝展(文展)・日展は問題を抱えつつも、工芸表現を発表する中心の場であり続けていますが、そこで問題となるのが、用と美の関係であり、自己表現としてのあり方でした。

# 第2章

## 四耕会、走泥社からクレイワーク、ファイバーワークへ

第一次世界大戦後、陶芸分野の四耕会や走泥社の作家らが非実用形態のオブジェを制作するなど、工芸界の各分野で表現領域が大きく拡大して、きました。特にクレイワークやファイバーワークなど、称された表現は、時代を切り開く力にあふれていました。

堀内紀子  
浮上する立方体の内包する空気  
昭和52年(1977)



香浦省吾  
海と山と 陶絵輪立  
昭和6年(1931)

# モダンクラフトクロニクル

## 京都国立近代美術館コレクションより

1963年に開館した京都国立近代美術館は活動の柱の一つに工芸を置いており、国内有数の工芸コレクションを形成してきました。加えて、当館は「現代国際陶芸展」(1964)、「現代の陶芸—アメリカ・カナダ・メキシコと日本—」(1971)、「今日の造形(織)—ヨーロッパと日本—」(1976)、「現代ガラスの美—ヨーロッパと日本—」(1980)など、折に触れて日本との比較の中で海外の工芸表現を紹介し、日本の美術・工芸界に大きな刺激を与えてきました。本展では、当館の工芸コレクションを用いて、これまでの当館の展覧会活動の端を振り返るとともに、近代工芸の展開を7章にわけて、時代を遡りながら紹介いたします。

観覧料 一般1200円(1000円)、大学生500円(400円)、高校生以下、18歳未満無料 ※(内)は20名以上の団体、夜間開館時(金曜・土曜午後5時以降の夜間割引料)金※心身に障がいのある方と付添者1名は無料(入館の際に証明できるものを提示ください)※本料金でコレクション展もご覧いただけます

## A Chronicle of Modern Crafts

Works from the National Museum of Modern Art, Kyoto Collection



# 第4章

## 古典の発見と伝統の創出

大正末頃から、日本では中国や朝鮮半島、日本の桃山時代等の工芸の研究・再評価が進み、それらを手本に古典復興及び創作活動を展開する作家たちが現れました。そして民芸運動、伝統工芸など、古典や風土性に根差した工芸制作は、現代工芸の主要な柱となっており、

加藤士郎  
萌黄金細手菊文蓋付大徳壺  
昭和43年(1968)  
パナードリーチ  
渡邊大血魂  
大正9年(1920)  
© The National Museum of Modern Art, Kyoto  
D.A.S. & A.V.A.R. 2021. All Rights Reserved.  
藤井達吉  
松岡屏風  
大正5年頃(1916)

# 第5章

## 新興工芸の萌芽

### 自己表現としての工芸

大正時代に富本憲吉やパナード・リーチ、藤井達吉など、従来の規範にとらわれず、アマチュア的な技術でありながらも自然発見つめるとい、う新しい態度で工芸制作を行う作家が登場します。こうした自己の内面の表出を重視した作家たちによって、「近代工芸」の扉が開かれました。



# 京都国立近代美術館

(岡崎公園内)

The National Museum of Modern Art, Kyoto  
〒600-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町  
電話 075-761-1411  
ホームページ <https://www.monak.go.jp/>

- 交通案内
- J.R. 近鉄バスをご利用の方
  - J.R. 近鉄京都駅 A1 のりばから市バス5番線開通寺・岩倉行 岡崎公園美術館・平安神宮前下車すぐ
  - J.R. 近鉄京都駅 D1 のりばから市バス100番急行清水寺・銀閣寺行 岡崎公園美術館・平安神宮前下車すぐ
  - 阪急丸太駅 京都河原町駅 京阪三条駅 から市バス5番線開通寺・岩倉行
  - 岡崎公園美術館 平安神宮前下車すぐ
  - 阪急丸太駅・京都河原町駅 京阪三条駅 から市バス4番線 平安神宮行 岡崎公園美術館 平安神宮前下車すぐ
  - 市バス他系統をご利用の方
  - 岡崎公園口(ムジナ1)京都市こめつせ前下車徒歩約5分
  - 東山二条 岡崎公園口 下車徒歩約10分
  - 地下鉄をご利用の方
  - 地下鉄東西線 東山駅 下車徒歩約10分
  - お車でのご越しになる方
  - 当館には駐車場がございません。近隣の有料駐車施設のご利用をお願いいたします。岡崎公園駐車場をご利用の資料入館者は、駐車場の割引1台につき1回を受けられますので、駐車券をお持ちの上お越しください。

# 第7章

## 手わざの行方

明治維新を迎え、それまで幕藩体制による庇護のもと行われていたものづくりは、大きな変革を強いられました。そして海外への輸出を目的に手わざをそれぞれ自体を強調したような置物や花瓶、額などが盛んに制作されました。それらは、近年、超絶技巧と称され、急速に再評価が進んでいます。

並河靖之  
桜織図平皿  
明治時代

# 第6章

## 図案の近代化

世界で高い評価を得ていた日本の工芸品は、1900年前後に図案に旧態依然であるとしてそれらの図案に敵し、目が向けられるようになり、そのために図案の改良が求められていきます。その実践の中心地の一つが、浅井忠や神坂雪佳らを擁した京都であり、彼らは工芸家らと共同して次々と新傾向の作品を生み出しました。

神坂祐吉  
月之意時絵扇箱  
大正時代



▲至出町柳	神宮丸太町駅	平安神宮	丸太町通
鴨川	冷泉通	美細橋駅	岡崎公園 駐車場
		ロームシアター京都	二条通
		みやこめっせ 京都国立 近代美術館	京都市 動物園
京阪電車	三条駅	京都市 セラ美術館	仁王門通
	三条駅		至六地蔵・びわ湖茨大津
	至淀屋橋・中之島	東大路通	神宮道
			三條通 岡崎通